

令和3年度 予算

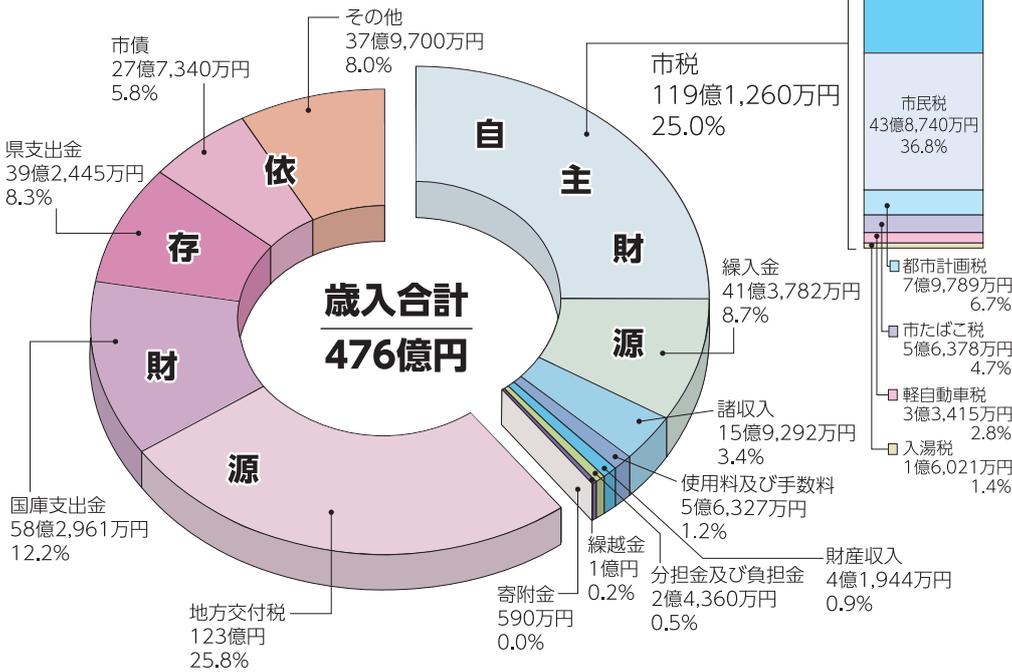
人と自然、そして文化がおりなす 活力とやさしさがあふれる 飛驒高山を目指して



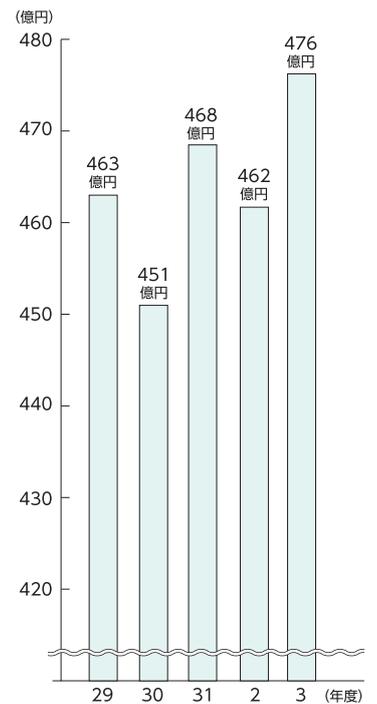
総額779億円のあらまし

市では、3月1日から開会する市議会定例会に、一般会計476億円、特別会計・企業会計303億円余の令和3年度予算案を提案しました。

歳入



一般会計当初予算の推移 (※令和3年度は予算案)



新年度予算案のポイント

令和3年度予算は、第八次総合計画に掲げるまちづくりの方向性とまちづくり戦略の着実な推進を基本としつつ、新型コロナウイルス感染症の拡大により浮き彫りとなった様々な課題への対応も踏まえた予算として編成しました。

まちづくり方向性の「多様な働き方と優れた産品、サービスで財を稼ぐ」では、宮川人道橋(行神橋)左岸の賑わい創出施設整備による中心市街地の活性化や回遊性の向上を図るほか、地域経済構造分析に基づく強い産業構造の構築に向けた取り組みや100年先の森林づくりなどを推進します。また、「心身の健康と文化、教育で心豊かな暮らしを実現する」では、まちづくり協議会などによる地域のまちづくり活動を支援するほか、福祉総合相談窓口の充実や高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施などを進めます。加えて、「人と人がつながり、安全で美しさと便利さが共存する持続可能なまちをつくる」では、防災・減災、国土強靱化などの市民の安全・安心の確保に向けた取り組みを推進するほか、火葬場やごみ処理施設、都市計画道路の整備なども着実に推進します。

感染症への対応については、ウィズコロナ社会における「適応戦略」として、感染の防止や生活の維持、